

健康通信

「胆石」について



外科 部長医師
望月 能成

「胆石」という病気をみなさん一度は耳にしたことがあると思います。周りにも「胆石で入院しました」、「胆石で手術しました」という方がいるのではないのでしょうか？今回はそんな「胆石」という病気をとりあげます。

胆石とは、胆嚢や胆管に発生する結石のことを指します。一般的に胆嚢内にある場合を胆石症（胆嚢結石症）、胆管内にある場合を胆管結石症と呼んでいます。今回は胆嚢内の結石、胆石症（胆嚢結

石症）についてお話しします。

胆石の原因としては、代表的なものに高齢、肥満、コレステロールの過剰な摂取などが挙げられます。近年では、食生活の欧米化にともない胆石を患う方も増えていくといわれています。

それでは、胆石によって引き起こされる症状にはどのようなものがあるのでしょうか？「胆石」と聞くとやはり「痛い」といったイメージがあると思いますが、それはある意味では正しいのですが、

ある意味では間違っています。すなわち、胆石はもろろん痛みの原因になります。典型的な症状は、脂っこい物を食べた数時間後に右の上腹部やみぞおちの痛み、違和感が起こるといったものです。さらに、胆嚢の出口が閉塞したような場合にはせん痛発作といわれる強い腹痛発作や、発熱、腹痛などをともなう胆嚢炎を起こすこともあります。しかしながら、胆石を持つている人すべてに症状があるわけではありません。実は、胆石を持っていても何の症状もない方はたくさんいます。

現在の胆石の検査、治療はどうなっているのでしょうか？まず、胆石の検査についてですが、胆石の診断に力を発揮するのは超音波検査です。



体への負担も少なく結石の検出能力も高くよい検査です。その他にCT、MRI

などの検査ももちろん診断に有用です。近年では、検診で超音波検査が行われることも多くなり、症状のない胆石（無症候性胆石）が偶然に発見されることが増えていきます。

続いて胆石の治療についてですが、症状を伴う胆石症は基本的に治療の対象となります（今回詳細は割愛しますが、胆管結石は無症状でも治療の対象です）。胆石症の治療は、手術による胆嚢摘出がもっとも一般的です。現在、胆嚢摘出は多くの場合は腹腔鏡を用いて行い、開腹手術に比較すると術後の痛みは軽く、入院期間も短くなっています。手術以外の治療法には、薬による胆石溶解療法がありますが、実際には溶解する可能性もそれほど高くなく、また溶解に成功しても再発率が高く、手術に匹敵する根本的な治療とは言えません。無症候性胆石は一般的には治療の必要はありませんが、一部手術が推奨されるようなものもありますので、検診で発見され、医療機関受診の指示があった場合には必ず受診してください。